

にゅとぴあ 岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ

No. 129

コロナ禍における各国際交流団体 活動状況について

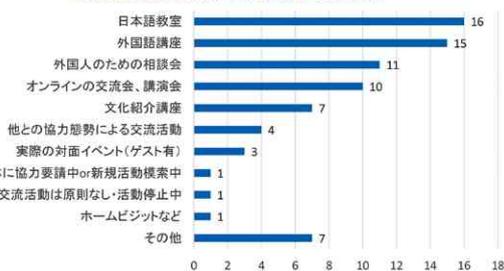
ほとんどの団体がオンラインによる方法を取りいれています。但し、各会員さんの通信環境の問題もありなかなか進まないという意見もありました。その他、興味ある回答として次のような回答がありました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は続き、度重なる緊急事態宣言のために当協会はほとんどの事業を休止せざるを得ない状況です。そこで、今回そのような状況を少しでも改善できるようにしたいと思い、各地の国際交流団体に「コロナ禍における活動内容」についてアンケート調査を行い19団体から回答をいただきました。以下が回答内容です。

☆国際交流活動継続の方法について

Q.新型コロナウイルス感染症蔓延の状況下、どのような手段で国際交流を維持しようとしていますか？

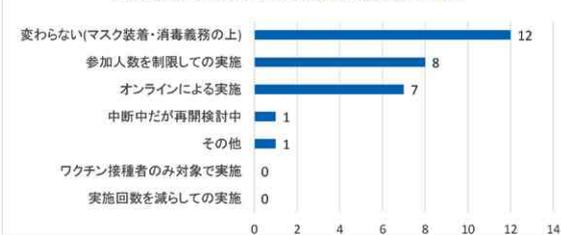
国際交流活動の継続努力形態(数字は回答数)



☆日本語教室・外国語講座の方法について

Q.どのように活動をしていますか？

日本語講座・外国語講座の実施形態(数字は回答数)



☆交流活動継続のための具体的対応例 (記述での回答を順不同で紹介)

- ・日本語教室のオンライン授業への切り替え
- ・外国から直接オンラインで交流
- ・国際理解教育事業(小中高校などでの授業での文化紹介をする事業)のオンライン授業
- ・オンライン可能な事業(講演会)の工夫
- ・外国人相談において電話相談に加えてオンライン相談会の実施
- ・オンラインに抵抗のある講師へのオンライン勉強会の開催予定
- ・オンラインに不慣れなスタッフへの研修

●活動継続のための努力活動例

- ・姉妹都市交流をどうするか代替案を検討した結果、次世代の交換留学生のために市内中学校・高校に向けて学生交換事業のPRを行うことにし、DVDを作成し学校に配布して見て頂き、感想やアンケートを提出していただいた。
- ・施設利用減少の中、「外国にルーツを持つ子ども達集まれ!」と題した子どもの居場所をつくり、保護者も日頃感じている思いをお互い交換して、交流が持てるような空間づくりを設定するための事業を検討中です。
- ・イベントなどはYouTubeにアップし、興味をもってもらえるようにした。

☆岸和田市の国際交流都市について



☆アンケートご協力団体☆

大阪国際交流センター・大阪府国際交流財団
国際交流基金関西国際センター・泉南市ABC委員会
泉佐野市地球交流会・かいづか国際交流協会
吹田市国際交流協会・摂津市国際交流協会
交野市国際交流協会・(財)八尾市国際交流センター
河内長野市国際交流協会・とんだばやし国際交流協会
NPO法人 芦屋市国際交流協会・宝塚市国際交流協会
高岡市国際交流協会・柏市国際交流協会
高槻市都市交流協会・和泉市国際交流協会
(公財)箕面市国際交流協会

各団体のご協力を深く感謝いたします。コロナ禍でも、どの団体も試行錯誤しながら事業を進めておられることがよくわかりました。まだまだコロナ禍の状況が続きそうですが、当協会も今回のアンケート結果を参考にしながら交流活動を続けていきたいと思っております。
(広報部会)



無料配布中

「にゅとぴあ岸和田」は世界の人びと、団体の出会いを求め、ふれあいを大切にした親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。



Since 1989

ifa-きしわだ
岸和田市国際親善協会

ifa-kishiwada.rinku.org

ようこそ！

だんじり インフォメーションセンターへ

世界の国々から

城とだんじりのまち岸和田

岸和田だんじり祭は1703年(元禄16年)、当時の岸和田藩主であった岡部長泰公が伏見稻荷大社を岸和田城三の丸に勧請し、五穀豊穡を祈願して行った稻荷祭を始まりとされている300有余年続いてきた伝統ある祭です。

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第二次世界大戦終結年の1945年(昭和20年)以来、75年ぶりに中止となりました。今年も依然としてコロナ禍収束の気配が見えない状況下、実施を巡って賛否両論がありました。運営組織は「2年連続中止になると、文化、伝統を継承するうえで痛手となる」と判断し、感染防止対策として、集団での練習の禁止、ワクチン接種の推進、検温、だんじりの間隔を広げる、沿道の見物客を極力抑制する等々の感染防止対策を取りながら、2年振りに実施されました。

当協会恒例の「外国人のためのだんじりインフォメーションセンター」は、今年も残念ながら閉鎖の止むなきに至りましたが、平時ではなかなか開示できない貴重な資料の一部をご紹介します。(広報部会)

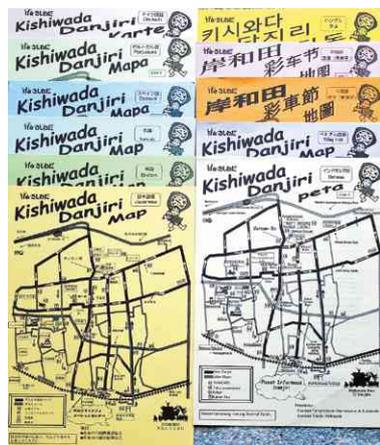


▼来場者の推移

だんじりインフォメーションセンター外国人来場者

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
天気											
総数	198	180	134	136	128	200	215	226	152	263	402
国数	29	48	25	27	27	29	34	33	28	33	46
言語別											
英語圏	45	40	38	35	29	54	43	44	24	47	137
中国語圏	30	24	31	27	38	34	27	39	40	27	58
スペイン語圏	13	8	9	11	7	19	14	24	34	36	26
フランス語圏	14	12	10	8	5	21	15	20	11	25	28
ポルトガル圏	12	6	3	5	4	18	15	16	1	11	10
インドネシア語	10	8	9	4	3	13	28	13	9	33	36
ベトナム語	0	0	2	2	3	3	5	12	5	6	8
ドイツ語	8	4	3	2	5	10	7	9	5	16	12
他言語	66	78	29	42	34	28	61	49	23	62	87

▼10言語版だんじりマップ



英語
フランス語
スペイン語
ポルトガル語
ドイツ語
中国語(2系列)
韓国語
ベトナム語
日本語

世界の国々から DANJIRI を見に来られる方々のサポートツールとして、大変好評を頂いています。

▼来場者の珍しい出身国 ベスト10



レユニオン



アンティグアバーブータ



バヌアツ



セントビセントグラナディーン



スワジランド(現 エスワティニ)



ガイアナ



モルディブ



ボツワナ



モルドバ



コモロ



だんじり DANJIRI
インフォメーションセンター

ひと言
コメント

珍しい国からようこそ (レユニオン仏領地域圏)



ソリエさんカップル。日本から55時間、南アフリカ・マダガスカル島の東に位置する人口85万の島からこんなに遠い岸和田へ?今から10年前エアフランスの機内マガジンで知り、極東の未知の国日本に興味を持ったのがきっかけで、美しい景色、クリーンで安全、伝統的な風習、親切な人々に魅せられ、爾来6回目の来日です。そしてついにこの祭りに出逢いました。センター前を走るだんじりの囃子にあわせて、ガッツなカメラポーズです。

日本語弁論大会優勝! (ウクライナ)



レドチュクさんはウクライナ国立大学で日本語を専攻している学生です。国際交流基金の日本語弁論大会で優勝し、成績優秀者の訪日プログラムで、関西国際センターで研修を受けています。努めて日本語を使うようとしているレドチュクさんは、和食は何でも大好きで、これからも日本文化について学び、両国の国際交流の架け橋になるという夢を持っています。だんじり1台にすぐく大勢の人たちが関わっているのが印象的だと話しました。

空手初段のストロング・レディ! (アイルランド)



クラレさんとシャラさんは、東京~京都~奈良~大阪~広島~東京2週間の旅程でハナムーン中です。奥さんシャラさんはカナダで留学中、日本文化について研究している中で、西洋にはない martial arts 空手に興味を持ち、習い始めました。そして現在まだ初段ですが、ご主人クラレさんは戦々恐々と質問すれども、No! No! No! と大真面目で否定。正式種目になった東京オリンピックでは世界レベルの空手を是非見たいとのこと。

TV取材クルーが逆取材された! (フランス)



フランステレビ局ミルベインさんとマキシムさん。2週間の滞在中、偶然台風21号と北海道胆振東地震の2つの大きな自然災害を経験し、貴重な画像もたくさん撮れたそうです。当センターで取材するつもりが、逆に当方からいろいろと取材を受けました。スタビライザー付きビデオカメラ2台、デジタルカメラ4台、ドローンとフル装備。大きな荷物をセンターに預けだんじりが疾走する町中へ取材開始。ドローン画像は許可せず、空中画像は NO。

インドネシアバレーボール大会 in 岸和田

さる8月13日、岸和田市総合体育館において、インドネシア出身メンバーからなるチームがトーナメントを繰り広げるバレーボール大会 Nusantara (ヌサンタラ) Club杯が開催されました。Nusantaraとはインドネシア語で「自国」という意味です。インドネシアでは最近バレーボール、サッカーは人気があり、日本

で働いている研修生、特定技能生などもチームを作りバレーボールを休日に楽しんでいます。大阪にもチームが多数あり、バレーボールが好きな人たち同士の交流もあります。今回、岸和田市にあるダイキ工業のアンドリ・ワヒューさんがSNSツール「WhatsAPP」を通じて試合の案内をしたところ、18チーム総勢100人を超えるインドネシアの若者が集まり、コロナ渦にもかかわらず、遠いところでは東京から夜行バスで来たチームもありました。



インドネシア国旗の掲げられた会場内の様子



開会式

開会式では全員でインドネシア国歌を歌い、またイスラム民族であるのでお祈りもあり、その様子に、皆さん各々が持

つ自国への想いの強さを感じました。

ちなみに、インドネシア人は日本人のように時間に厳しくないのですが、集合時間に遅れる人が多かったのですが、それに対して誰も文句を言いません。気候が温暖な国は大らかな国民性をもつと言われてい

ますが、この日はそれを肌で感じました。大会参加者は全員がインドネシア人。お昼のお祈りを全員がささげる姿や応援女性の着ているヘジャブ（顔だけ見える布）、掲揚しているインドネシア国旗に囲まれ、「ああ、この空間はインドネシアなんだ」と感じました。

外国にいながらも自分たちで企画して実現した大会。コロナ禍にあってもインドネシア人同士の絆や



ヌサンタラチーム(右端が主催者のアンドリさん)

自国への想いをお互いに確認しあえた意義ある大会だったことは、気持ちよく汗を流す彼らの清々しい表情からもしっかり感じ取れ、その場にいられたことは感慨深いことでありました。

(小島祥子・虻江詩奈子)

和歌山大学セミナー

国際化時代の日本語教育・日本語支援



長友文子先生

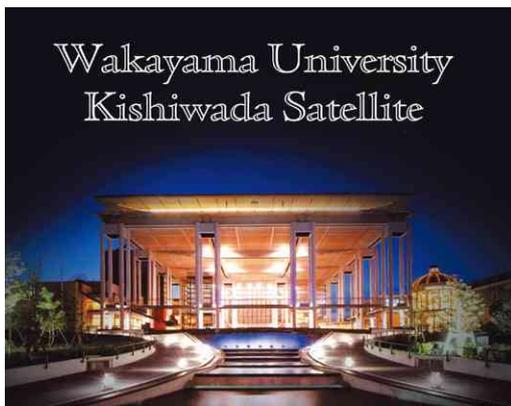
南海浪切ホールの2階に和歌山大学岸和田サテライトがあります。岸和田市をはじめとする泉州・大阪南部地域の和歌山大学の拠点として活動しています。活動のひとつに、月に一回和歌山大学の教職員が、身近な研究テーマや旬のトピックスをわかりやすく解説する「わだい浪切サロン」があります。

2008年から始まり、今回の第128回は「国際化時代の日本語教育・日本語支援」をテーマに和歌山大学国際連携部門長・教授の長友文子先生がZOOMを通じてオンライン講演会でお話していただきました。

講演の内容の第一部は留学生たちと日本語教育の現状について。留学生が増加し多様化したことにより、留学生が日本に興味を持ち留学先を日本に選んだ理由として、茶道や華道などの日本文化をもっと知りたいや、日本語をもっと学びたいと同じくらいに、日本のアニメ・マンガがそのきっかけになった学生も増えたことや、また、在住外

国人の増加により共通言語としての「やさしい日本語」が広まってきていること等について。

第二部は日本で働く外国人の増加にともなって増えてきている外国で育って日本で学ぶ子供たちに焦点をあてた内容でした。そのような子どもたちを先生は「外国につながる子ども」と呼び、家庭内では両親の母語、公立学校では日本語で生活しているといった子どもたちへの支援を担うのは他ならない地域の学校や大学や公的機関や民間のボランティア活動であることを強調されていました。「外国人が暮らしやすい街は、私たち日本人も誰もが暮らしやすい街である」



と講演の最後に語られた言葉が心に響きました。(内田満弥)

わだい浪切サロンは無料で誰でも参加できます。ぜひ一度HPを検索してみてください



<http://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/kishiwada/salon/about.html>



「モンゴル」のイメージは「相撲・横綱」だけだった私たちの家庭に、モンゴル人がホームビジットをすることになりました。ホームビジットではありませんが、コロナ禍の現在、関西国際センターには研修生は一人もいないので、ZOOM を使ったホームビジットです。

今までは、岸和田城や五風荘を案内した後、我が家でおでんやてんぷらなどを食べ、お互いの家族の事、日本の印象などを話し合いました。しかし、今回はZOOM。さて、どのようにもてなせばいいのか？



内田ファミリー
集合写真

まず、着物を着て画面に登場しようと夫婦で着物に着替え、和室がバックになるようにカメラをセット、日本茶とお菓子を準備しスタンバイしました。いよいよZOOM 開始！

画面に現れたのは、横綱とはまったく違う、若い女性が二人、一人はモンゴルの民族衣装の鮮やかなデールを着ています。もう一つの画面の女性は、少し厚着でセーターを着ています。お互い自己紹介をして、私たちはカステラを、彼女たちはモンゴルのお菓子 アーロール（干しヨーグルト）を食べるころには少し緊張がほどけてきます。

デールの女性はサラさん、セーターの女性はナン

ディアさん、二人とも JICA モンゴル日本人材開発センターで日本語を学ぶ学生です。サラさんは日本に留学した経験があり日本語がかなり上手、ナンディアさんが日本語につまると、サラさんがモンゴル語で手助けしていました。

サラさんがモンゴルの楽器 カリンバを演奏してくれた後は、日本とモンゴルの距離がぐんと近づきます。我が家の紹介も、カメラを移動して、台所や風呂やトイレも見てもらいました。岸和田の町を一緒に案内できないので、事前に作った岸和田城やアーケードの下を疾走するだんじりの動画を見せるとホームビジットは最高潮に。

そして、最後の驚きはナンディアさんが ZOOM で登場していた自宅が、大草原の中のゲルだったことです。カメラを持ってゲルの外へ、そこにはモンゴルの大草原が広がっていました。ZOOM を使用してのホームビジット、彼女



サラさんの趣味

たちにも日本の家庭の雰囲気伝わったでしょうが、私達夫婦もモンゴルの大草原のゲルのお宅にホームビジットできた恵まれた時間でした。



ナンディアさんのご自宅(ゲル)

(内田満弥)



国際交流の中で不可欠なのは外国語です。しかし、日本語は他の外国語と比べて、文字も文法も全く違う言語です。これが私たち日本人にとって外国語を学ぶ上で大きなハンディキャップとなっています。また古来から海に囲まれ外国文化に接する機会が少なかったことから、無意識のうちに外国語にコンプレックスを持つようになり、苦手意識を持つのは当然です。

このような背景のなかで、皆さんはどのようにして外国語に接し学習しているのか、苦労話や感じていることを自由に投稿していただきましょう。

Let's learn foreign language.

《重い十字架を背負った過去》

私が語学に関心を持った発端は、敗戦国日本が国際連合の80か国目の加盟国として認められて間もない頃、当時の中学校英語の先生の言葉である。「これからの日本は英語だけではだめだ。C 語や S 語を必要とする時代が来る」。そして某国立外国語大学で学ぶ場を得たが、満足な日本語教材もなく英語版のテキストを使って他の外国語を学ぶという学習方法で、外国人の客員教授だけが唯一の肉声教材であったので、語学上達には程遠い環境であった。世間では「国立外語大卒」という肩書だけで「語学堪能」という偏った認識が一般的であった。所謂 Overestimation である。それが重い十字架を背負うことになり、人前ではとにかく恥をかきたくないという心が自己を益々寡黙にさせてしまった。西欧に「雄弁は

銀、沈黙は金」という格言があるが、語学学習のためには「雄弁は金、沈黙は鉄クズ」である。

或る時、重要案件を限定時間内に纏め上げねばならない会合で MC を任される羽目になった。上手く運ぶかどうかは MC の進行手腕、つまり話術次第である。その時取った手段は間断なく話し続け、こちらのペースで進行させることであった。沈黙により、場を白けさせることよりも、文法的には多少の瑕疵があっても間断なく話すことにより場の活性化を図る重要性を認識した次第である。MC を務めた会合は首尾よく終わったことは言うまでもない。

爾来、「語学学習のためには、“雄弁は金、沈黙は鉄クズ”」を座右の銘にしている。(Y.S.)

7/17
(土)

7月のEOCは過去にゲストで来てくれたことのある方に、来店してから現在までの生活の様子、またコロナ禍のせいで、ではなく”コロナ禍のおかげで”身についたことや予期せぬ効果などを話していただきました。

Katherine Candray さん
(エルサルバドル)



Alice 藤田 さん
(フィリピン)



Usha Mahat さん
(ネパール)



まず、母国エルサルバドルでは、死因の2、3位であるシャーガス病をJICAからの奨学金でこの病気の先達者がある大阪市大病院で研究しているKatherine Candrayさんがこの病気の名前などの質問を受けた。このコロナ禍で頻りに連絡を取り合っている母親との関係が好転したと。

次は外信記者のご主人の転勤で息子二人の子育てに苦労してきたフィリピン人のAlice 藤田さん。2019年6月の来店後上記のKatherineのほかにも4人のゲストを紹介してくれている友人ネットワークの広い人物である。今回マニラにいる家族の一人が陽性となり、18人が1か月半大変厳しい自粛生活をしなければならなかった様子を語ってくれた。Text-savvy (携帯操作能力) が向上したことが予期せぬ産物だったそうです。

最後は2019年2月に来店後、多文化共生講座としてサリーの装着体験もして下さったUsha Mahat さん。今回も健老大学や公民館から、英語の生徒さんが8人も応援(?)にやってこられた。

コロナ禍中は自身の子供たちと一緒にの生活を楽しんだことや、勉強時間を確保することができたおかげで、去年は日本語検定2級に合格、今年は1級にチャレンジ予定だそうです。

EOCの歴史は、2005年3月に浪切交流室でO先生を中心にEnglish Caféとしてスタートし、賃料がかさむこともあり、もっとゆるやかに誰でも来店をの意でEnglish Open Caféとして、2005年H先生が再開店



左から Ushaさん、Katherineさん、Aliceさん

(詳細は63.64.80号をご覧ください) その後2012年8月からは数か月事務局で担当の後、Hさん、またNさんが中心になって長くCafe活動が続き、2019年春にtake over しました。

その間3回に亘って、6か月間の閉店はありましたが、7月現在20人のゲストがプレゼンしてくれています。その間S氏のご助言を受けて2020年年初に来店者の自己の英語レベルやEOCへの希望などのアンケートを実施することができた結果、半分くらいの理解度を回答した人が一番多く80%以上は25%以下と同じくらいの比率でした。

たとえ流暢な英語を話すゲストでなくとも所詮私たちの英語も第二言語ですからMCが事前にゲストの国について学習しインタビュー形式にするなど工夫しながらゲストの国の文化や体験を共通語としての英語を通してお互いの人間理解力を進めていきたいと思っています。

その際には今回のゲストAliceの言葉にあったコロナ禍ではあっても、”read the lips”はeye contactと共に語学学習に外せないポイントです。また英語力アップのチャンスととらえ、MCやゲストの紹介者だけでなく、負担に感じすぎない程度で参加者に分担してやっていきたいと考えています。ご来店とご協力をお願いします。

(内田喜江)





第7回

しんがた ころな わくちん
新型コロナ ワクチン
 ちゅうしゃ しょうかい
注射 のことを 紹介します
 きしわだし
(岸和田市)

わくちん ちゅうしゃ こうか
1. ワクチン 注射の 効果

- (1) 新型コロナに かかり にくい
- (2) 病気が 悪く なることが 少ない
- (3) 他の 人に うつすことが 少ない



わくちん ちゅうしゃ あんぜんせい ふくはんのう
2. ワクチン 注射の 安全性 と 副反応

あんぜんせい にほん くに てすと
安全性：日本の 国が いろいろな テストを しました。
 それで 安全と 言っています。

ふくはんのう わくちん う あと からだ で ふつう
副反応：ワクチンを 打った後 体に出る 普通ではない
 ことです。注射した ところや 体が 痛く なる 人が
 います。普通と 違うことが あったときは すぐに 近くの
 人に 言ってください。 医者が 診てくれます。

わくちん しゅるい
3. ワクチンの 種類

ふあいざー しゃ たけだ もでるな しゃ あすとらぜねか しゃ
ファイザー社、武田／モデルナ社、アストラゼネカ社 の
 ワクチンが あります。アストラゼネカ社の ワクチンは
 40歳以上の 人が 注射できます。

ねん がつ にち ちゅうしゃ
4. 2022年2月28日までに みんなが 注射できます。

わくちん ちゅうしゃ
ワクチン 注射のことで わからないことが
 ある 人は 下に 書いてある ところに
 聞いてください。

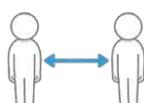
めでいかる ねっと
おおさかメディカルネット
for Foreigners (pref.osaka.jp)



おおさかこくさいこうりゅうざいだん
大阪国際交流財団 Osaka Foundation of International Exchange (OFIX)
<https://www.ofix.or.jp/life> **06-6941-2297**

わくちん ちゅうしゃ う ますく
5. ワクチン 注射を 打ったあとも マスクを つけます

て あら
手を 洗います。
 ひと
人が たくさん 集まる ところには 行きません
 まど
窓を あけます。



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ世界のカルチャー、ファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとらわれず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

《五輪》

厳しい社会状況下での東京 2020 オリンピック・パラリンピック。本来ならば各地で盛んに国際交流の機会があったらうに。残念だ。それでも、感染対策をして事前合宿を受け入れた街では、リモートなど工夫をこらして市民との交流を図っていた。そして、大会ボランティアの皆さんが、日々のサポートのみならず、無観客の競技会場で各国の選手を応援している様子が見られた。選手、関係者からの多くの謝意が届けられていたのはいうまでもない。

一般の希望者がオリンピックボランティアとして参加したのは、'48年のロンドンオリンピックからだそう。筆者が当時在住していたシドニーでは2000年にオリンピック・パラリンピックが開催され、約5万5000もの方がボランティアとして参加したことで話題となった。シティーキャストと呼ばれるボランティアは、街中がイベント会場のように賑やかなに人々を楽しませながら案内してくれたことを思い出す。そして、スポーツやコンピューター関係など専門の知識を持ったボランティアも数多くいたと聞いた時は驚いた。確かに、当時、学校関係は休暇が1週間延長され3週間に、また有給休暇も取りやすくなっていた。大会後、シドニー市内で約3万人のボランティアがパレードをして、街中の人から感謝の拍手が贈られる様子がテレビ中継されたのは記憶に新しい。正式に登録してなくても、いつも心にボランティアの気持ちを持ってほしいものだ。

遡り、'64年9月。東京オリンピックの聖火は、ランナーと市内の中学生で構成された伴走者たちと共に府道30号線を通り、白いけむりに包まれるように岸和田市内を駆け抜けて行った。なんとなく白いけむりだけを覚えている。市民会館があった頃、ロビーの陳列ケースには今とは比べ物にならないくらいシンプルな聖火リレーのトーチが長く展示されていたが、今でもどこかに保管されているのだろうか。(三森すみ代)

岸城中学校 夜間学級での研修会

「にゅ〜とぴあ岸和田」の前号(128号)で紹介した岸城中学校夜間学級から、岸和田市国際親善協会(以下当協会)の外国人への対応と日本語指導の取り組みについて詳しく知りたいとの依頼があり、今回研修会を行うことになりました。

夜間学級は現在全生徒41人の内37名が外国籍の生徒です。日本語学校ではないので、昼間の中学校と同じように数学・理科や保健体育などの授業もありますが、日本語授業の必要性が高くなっています。参加された7名の先生方はそれぞれ専門の教科があり、日本語を使い数学や理科の授業をしますが、まず生徒が日本語を理解してくれないと、授業にはなりません。

一方当協会は、岸和田近辺に住む外国人を対象に、「日本語サロン」や「日本語指導補助員の派遣」等の日本語学習支援活動を古くから行っています。いずれも外国人に対して日本語を教えるという共通点があります。日本語を学ぶ外国人のために、今回の機会を通じて当協会の多岐にわたる活動を紹介し、今後の指導をより良いものとするために開催されました。



講師として派遣したのは、日本語サロンボランティアでもあり通訳として多言語対応もしている2名で、彼女たちが持参した日本語指導テキストの種類の多さに先生方は驚かれ



ながら、個々の生徒の現在の日本語の習熟度、目指すゴールによってきめ細かくマンツーマンで指導している当協会の活動をうらやましく思われたようです。また、市役所や病院まで一緒に行き手続きや診察の手助けをする通訳の活動、それがすべてボランティア活動であることに感動され、「何がその原動力ですか?」との質問がありました。答えは「楽しいから」。驚かれそして納得された先生方の表情が印象的でした。

「時には関西弁・泉州弁を教えることもある」という発言に対して、「関西弁を教えてよいのか。」という質問もありました。職場や地域の人たちが話す言葉がテキストに出てくる言葉と違うこととまどい学習意欲が落ちてしまう学習者もいるので、例えば「あかん」は「ダメ」「よくない」の意味だと補足することは必要だが、私たち日本語ボランティアはあくまで標準

語で指導を行っていることを説明しました。

最後に、当協会では今後普及に力を入れていきたいと思っている「やさしい日本語」について紹介しました。日本に長く滞在する生活者としての外国人が増えている現在、外国人が役所や学校、病院などで難しい日本語での対応や書類に苦労することも多くなっています。地震や大雨などの災害も多発しています。日本人にさえ難解な日本語を「やさしい日本語」に変えるだけで、外国人も理解しやすく通訳の必要も少なくなることを説明しました。

日本に住む外国人が日本語を通じてより一層日本を理解し生活する上で困ることのないよう、当協会が行っている様々な活動を紹介することができ、また今後お互い緊密に連携をとっていくことを確認しました。

(取材・広報部会)

English Open Café

各国からのゲストをお招きし、英語でプレゼンをしていただき交流を図ります。
【日 時】 9月以外の第3土曜日 13:30~15:30
【場 所】 マドカホール 3F 視聴覚室
【費 用】 無料
*事務局にお申込みください。(先着 20 名まで受付します)

訃報

元会長、顧問を永年していただいております信貴 信子代さんが、8月20日逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

初級英会話クラブ

【日 時】 第2・第4水曜日 10:00~12:00
【場 所】 マドカホール 3F 会議室
【費 用】 月2回 1400円、3ヵ月前納
【対 象】 当協会会員
*事務局にお申込みください。

にゅ〜とぴあ岸和田 No.129

お問い合わせや感想などは事務局まで

編集担当 鯉江詩奈子・内田満弥・大塚 洋・塩屋 裕・西村紀子・三森すみ代

TEL&FAX (072)457-9694

https://ifa-kishiwada.rinku.org/ メール ☒ kokusai@sensyu.ne.jp

